



CONTENTS

- ◆後援会会長あいさつ…………… 1
- ◆教育学部長あいさつ…………… 2
- ◆1000時間体験学修
10周年記念シンポジウム…………… 3
- ◆学生の年間スケジュール紹介 …… 4
- ◆卒業生の声…………… 8
- ◆後援会活動の概要…………… 11
- ◆後援会幹事名簿…………… 12



「夢から目標へ」

後援会会長 原 浩幸

島根大学教育学部後援会の皆様には、日頃より後援会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。本年度、会長を拝命させていただくことになりました原と申します。皆様のお力をお借りして、本後援会がますます発展するよう、また学生の皆さんが充実した学生生活を過ごすことができるよう、誠意をもって取り組んでまいりたいと考えていますので、ご指導ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、今年は日本各地で記録的な豪雪になるなど厳しい冬となり、ここ松江も例年になく寒い日が続きました。そのような状況のなか、ソチオリンピック・パラリンピックでの選手の皆さんの活躍に心躍り、直向きで絶えまない努力の積み重ねで目標を達成された笑顔に、やがて訪れる春を確信し、心待ちにすることができたのは私だけではないと思います。

今日、教育の現場では、社会を生き抜く力の養成、いじめやネット依存などの問題への対応、さらには教育に係る数々の提言等により、教師に求められる資質も変化しつつあり、「グローバル人材」が一つのキーワードともなっています。学ぶべく高度で専門的な知識と技術・技法は日々進化を求められますが、学びを求める子どもの姿はいつの時代も純粹であると思います。未知なる新しい世界を教え導いてくれる人との出会いを求め、憧れている子ども一人ひとりの信頼に応えていくべく資質・能力を学んでほしいと願っています。教育学部で取り組んでおられる「1000時間体験学修」と「プロファイルシート」などを統合した「教師力育成総合支援システム」、「学部情報システム」の運用は、教師になるためのスキル習得に加え、子どもたちや保護者、地域の人たちとのふれ

あいを通して、教師である前に人としての魅力や感性をも磨いてくれるものと確信しております。

本後援会は「島根大学教育学部の発展充実に寄与し、在学生の教育に関し、学部と協力すること」を目的に、昭和27年から今日に至るまで、学部長先生をはじめ、教育学部関係者の皆様、活動を支えてこられた各方面の諸先輩方のご尽力により、学生の皆さんが実り豊かな学生生活が送れるように支援を続けることができております。主な事業として、「1000時間体験学修」などの学生教育活動、教育実習、さらには就職活動の支援の一環として書籍整備、企業訪問などに係る経費の助成を行っております。こうした支援は、教育学部の明確な目標と方針と相まって確実な成果となって現れ、教員就職率のアップにつながり、全国の国立系教員養成大学・学部のなかでも常に上位に位置づけられているとお聞きしています。学生の皆さんの努力はもちろんですが、教育学部関係者の皆様のご尽力に心から敬意を表し、感謝申し上げます。

「教師になりたい」という夢をもって入学された皆さんは学びの過程で、「教師になる」という目標へと意識が変わっていくことを実感され、目標と位置付けたことで、さらに努力を続けている、頑張れる自分自身に気づかれたことと思います。そんな皆さんを後援会は応援していきます。また後援会の皆様には、後援会組織としての直接支援の他に、職場またはお住まいの地域で、1000時間体験学生を受け入れるなど、学生の皆さんが学外で活動する際にも積極的なご支援をお願いいたします。

皆様のご理解を賜り、ますます充実した後援会活動ができますよう、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。



「地域密接型学部として、 皆様とともに」

教育学部長 小川 巖

はじめまして。小川巖（おがわいわお）と申します。秋重幸邦教授の後をうけ、平成26年度から学部長の任に就くことになりました。特別支援学校の教員をめざす学生の教育、障がい児心理と指導法について研究しています。

教育学部後援会員の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素から、本学部の教育・研究活動や就職支援活動に多大のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、今年度入学された学生の保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。お子様たちの「教師になるという夢」また「社会人としての自立」に向けて、我々学部教員一丸となって支援していく所存です。保護者の皆様の本学部教育へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

我々の世代（昭和30年代生まれ）においては、大学の建物は古いもの、悪い表現で恐縮ですが、汚いものだという通念がありました。が、たとえば近年の高校生がまず気にするのはトイレのきれいさです。毎年8月に高校生を対象とした「オープンキャンパス」を実施しています。そこでのアンケートから、教育学部の建物内・外の美しく整備された環境について、多くの高校生が良い印象をもってくれていることがわかります。これらは後援会の皆様のお力を得て可能になっています。

本学部は、平成16年に、島根・鳥取両県の教員養成を担う基幹学部として鳥取大学との再編統合を経て再スタートいたしました。医学部や薬学部と同様の高度な専門職業人を養成する、いわゆる「目的養成学部」です。昨年12月に文部科学省がHPにおいて全国の教員養成学部のミッション（ミッションの再定義）を公開しました。本学部は「地域密接型学部」として、特に山陰両県において「現代的・地域的教育課題を解決する高度な専門性をもった教員を養成する」ことを最大

の使命としています。

今年度、文部科学省はこれからの教員にとって必要な資質として、長い教職生活において学習し続けられるタフさ、持続した探究心・向上心などをあげています。また、あわせて、大学での教員養成と教員採用試験また就職後の研修など、大学とその後が切り離されることなく一貫性がそこにあること、そのための大学と地域諸機関との連携・協働、これらの必要性を明示しました。これまで以上に大学と地域との関係性（ソーシャル・キャピタル（絆））、地域の核としての大学機能が問われる時代になってきました。

卒業して現場に立ってから勉強しなさい・頑張りなさいではない、社会に出た後の連続性を意識した学部での教育内容・体制等を本学部は構築してきました。地域の一員である教師になる以前に、学部の段階から地域に出かけ様々な人たちと交流する「1000時間体験学修」、後援会の皆様にはそのための旅費等援助いただいております。また、会員の方には「教師力パワーアップセミナー」において面接官になっていただきフェイス・トゥー・フェイスでご指導・ご支援いただいています。人生の先輩のお話・アドバイスを直に耳にすることができるこのセミナーは学生たちに非常に好評です。

不安をかかえつつも地域に出かけていく学部生への支援、また、教師力育成セミナーその他就職支援活動等を通して、入学した一人ひとりの学生が夢に向かい自己実現して行けるよう、後援会の皆様には、ますますのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、本年度の学部教育活動評価委員（外部評価委員）の方から、もっと広報をとというご意見をいただきました。本学部の良さを今以上に地域の皆様に発信して行く所存です。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

10周年記念シンポジウム

平成16年度からスタートした島根大学教育学部の教員養成カリキュラムである「1000時間 体験学修（基礎体験領域、学校教育体験領域、臨床・カウンセリング体験領域）」は、平成25年度で10年目を迎えました。今までの10年を振り返るとともに、今後の1000時間体験学修の在り方を考えるために、平成26年2月22日シンポジウムを開催しました。

独立行政法人教員研修センター理事長 高岡信也氏の基調講演をはじめ、本学の卒業生からこの1000時間体験学修で何を学び、そして学校現場等でこの体験をどのように活かしているのかについての発表、さらに、「学生のうちに身につけておく力とは何か」というテーマのもとパネルディスカッションを行いました。



教員研修センター 高岡信也理事長

◆卒業生の発表

卒業生の発表では、本学卒業の2名の先生に、学生の頃の1000時間体験学修の学びや現在の様子について発表していただきました。学生の時に学習支援活動や子どもと関わる活動を行っていたために、現在の教科指導や学級経営に活かされている等の貴重な発表をしていただきました。



卒業生による発表

◆パネルディスカッション

パネルディスカッションでは教育行政・学校教育・社会教育の方々に参加していただき、「学生を受け入れる際の思いや取り組み内容」「学生たちの体験先での学び」「学生のうちに身につけておく力や、体験活動をより発展させるための課題」等について討議をしていただき、今後の1000時間体験学修の進むべき方向についての示唆もいただきました。



関係機関からの講師等によるシンポジウム

◆1000時間体験学修追跡調査アンケート

このシンポジウムに向けて、卒業生に事前にアンケートをとりました。大部分の卒業生がこの1000時間体験学修で学びがあり、学校現場で「子ども理解」「教科指導」「学校理解」等で、現在役立っていると回答していただきました。卒業生の声を一部ご紹介したいと思います。

- ・「子どもの前に立つことに慣れているね。」と先生方に言ってもらった。また自分がどんなことを目指したいのか、考えをもって仕事ができる。
- ・学校教育体験を通して、教材・教具の工夫が子どもの学びを深めることに気づいたので、日頃の授業でもそれを意識して実践することができている。
- ・グループワーキングトレーニングの手法を実践でき、学級経営・生徒指導面でつながっている。
- ・島根大学のカリキュラムは本当に充実している。卒業してますます思う。これをフルに活用して今の学生には充実した学生生活を送ってほしい。

入門期セミナーⅠ・Ⅱ

《入門期セミナーⅠ》

初年次教育プログラムの一つである1泊2日のセミナーです。1000時間体験学修プログラムを理解し、4年間の大学生活の見通しを持つことを主な目的としています。4年間で共に過ごす仲間や学生スタッフの先輩との2日間の関わりを通し、幅広い人間関係を築くことができます。1年生にとって、大学生活への期待がふくらむ有意義なセミナーです。

《入門期セミナーⅡ》

※水曜4・5コマ、金曜5コマ開講

入門期セミナーⅡは、主専攻又は副専攻を決定するためのプログラムであると同時に、教育学部で開講されている幅広い授業内容を体験する「教育学部入門」としても位置づけられています。各専攻の講義内容や取得可能な免許の説明を受けることができます。



大学祭

松江キャンパスでは「凧風（しょうふう）祭」という名称で毎年10月に開催されています。



基礎体験交流会

1・2年生を対象とした基礎体験の意見交換会です。先輩や他専攻生の話を聞き、今後の各自の基礎体験活動の充実を図ります。

●●学部（大学）行事等 ★web入力（必須）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
●入学式・オリエンテーション ●入門期セミナーⅠ											●基礎体験交流会
	●入門期セミナーⅡ			●主専攻決定	●スタートアップセミナー			●介護等体験登録締切	●介護等体験説明会		
	●専攻決定ガイダンス ●一般教養ちからだめし										●副専攻決定
		●学校教育実習Ⅰ ★教職志向・進路調査			●在学生ガイダンス ●副専攻決定仮決定（年度末に決定）						
	●学校教育実践研究Ⅰ										
	●基礎体験合同説明会 ●基礎体験活動開始										

学校教育実習Ⅰ
教職志向・進路調査

学校教育実習Ⅰ（前期・20時間）

附属学校園で5日間、午前中は授業観察を行い、午後は大学で観察のまとめと振り返りを行います。

実習後には、第1回教職志向・進路調査を紙媒体とWebによって行います。



学校教育実践研究Ⅰ

学校教育実習Ⅰと連動して水曜3コマに開講されるコア授業科目です。授業（保育）が教師の教授行為と学習者の学習行動との相互作用によって成り立っていることを知り、授業（保育）観察の方法と授業（保育）記録のとり方を中心に学習します。

基礎体験活動開始
（1000時間体験学修プログラム）

必修の110時間（基礎体験セミナー・介護等体験など）と選択の400時間の時間認定が必要です。選択の活動では、地域のイベントや社会教育施設の活動、小・中学校での学習支援など、多様な活動に参加でき、各学年で約100時間が目安になっています。



スタートアップセミナー

入学時からの基礎体験活動の取組みを振り返る、1年生対象の基礎体験セミナーです。体験時間の確認、活動参加への心構えや手続きの再確認を行います。また、小グループに分かれて体験発表会などを行い、今後の活動をさらに充実させていくためのセミナーです。



専攻決定

専攻決定に関しては、どのような入試形態で入学したかによって選択できる専攻が異なります。専攻決定のためのプログラムは、「入門期セミナーⅡ」と「学校教育実習Ⅰ」です。

★副専攻決定について

副専攻は複数免許の取得にも直結していますが、主専攻の免許との組み合わせは教員採用試験受験校種や採用後の勤務形態とも深く関わってきます。

5

学校教育実践研究Ⅱ

学校教育実習Ⅲ・Ⅳと連動して開講されるコア授業科目です。前半は実習班で活動し、後半は専攻毎に分かれて行います。主専攻に対応する校種・教科の授業実践に焦点化し、授業分析や教材研究、教材制作のトレーニング、学習指導案作成と模擬授業を行います。また事後指導では、自らの実習を深化・発展させるための「ふりかえり」を行います。

学校教育実践研究Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

●学校教育実習Ⅲ（前期・40時間・1単位）

主専攻に対応した教育実習です。附属学校・私立幼稚園の授業（保育）観察を通して、授業（保育）を「教師と学習者のコミュニケーションの総体」として把握し、学校教育実習Ⅳに必要な授業実践力の基礎を培います（人間生活環境教育専攻で幼稚園一種免許型の学生は、私立幼稚園で80時間・2単位の実習を行います）。

●学校教育実習Ⅳ（後期・160時間・4単位）

主専攻に対応し、授業実践に主軸を置いた教育実習です。学習指導に力点を置くとともに、道徳、特別活動等にも取り組みます。学習集団の形成や学級運営に係る実践的トレーニングを行い、教職へのより深い理解と基礎的な実践力の育成を図ります（人間生活環境教育専攻で幼稚園一種免許型の学生は、公立幼稚園で120時間・3単位の実習を行います）。

●学校教育実習Ⅴ（後期・40時間・1単位）

学校教育実習Ⅲ・Ⅳとは異なる校種での教育実習です。学齢期にある子どもを「成長」「発達」の総体として捉え、より豊かな子供理解を促します。なお、実習を行う校種は学生の主専攻と副専攻の組み合わせによって異なります。

実習セメスター

3年生の後期は実習セメスターとなっています。この期間に教育実習Ⅳ・Ⅴを行います。実習を行わない期間を活用して特別に用意された基礎体験活動を行います。公立小中学校・幼稚園に教育体験に行くことができ、教育実習とこの学外教育体験を往還させることによって、より幅広い教師力を身につけることが期待できます。



●学部（大学）行事等 ★web入力（必須）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実習	○学校教育実践研究Ⅱ						○実習セメスター					
		○学校教育実習Ⅲ				○学校教育実習Ⅳ			○学校教育実習Ⅴ			
講義・その他	○在学生ガイダンス ○健康診断		★教職志向・進路調査			○在学生ガイダンス		○プロフィールシート(PS)作成説明会 ★PS入力		○PS返却		
			○実習セメスター説明会		○実習セメスター合同事前指導				○応用期セミナー ★PSまとめ ○教員採用試験合格者体験報告会			
				○面接道場					★教職志向・進路・取得予定の免許状調査			○教師力パワーアップセミナー
	○C系・G系											

面接道場[平成26年8月6日(水)開催]

外部の目を通して、教育学部学生に対する期待や要望を学ぶ機会が特別に設けられています。それが「面接道場」です。人生の達人である学部評価委員の方々が、面接を通して社会人としての基本的な資質を伝授していただきます。学内で事前指導も行われます。



応用期セミナー

3年生対象の基礎体験セミナーです。実習セメスター及び教育実習での活動を振り返り、今後の大学生活を展望するとともに、進路決定に向けての自己啓発を促す時間とします。学外体験活動や教育実習での学びの発表や進路希望別グループでの協議を行います。



教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取組みです。3月の「宿泊研修」に始まり、教員採用試験の面接対策や卒業後の教員生活ですぐに必要なスキルを研修します。教員採用試験合格者や現役教員である先輩との交流会もあり、不安や悩みを解決できるセミナーです。



学校教育実習Ⅵ

学校教育実習Ⅵ(前期・40時間・1単位)
[選択]

それぞれの教職志向に対応し、主体的に選択する学校教育実習科目です。さらに深めたい学習内容や取得したい免許状に基づき、対応した深化型あるいは副免型の実習タイプを選択します。

教師力パワーアップセミナー
(未来に向けて)

このセミナーは採用試験に合格した人、不合格だったけれども講師として頑張ろうと考えている人、つまり来年の4月から教壇に立つ皆さんの未来に向けてサポートするものです。
学級担任を想定した「学級開き」の模擬授業やラウンドテーブル、中堅教員との交流会を通して皆さんの教師力をさらにアップさせます。

教育情報入力

これらの情報は、同学年や全国の動向などをふまえ、みなさんの就職支援を行う上で有益な情報となります。たとえば、あなたの現在の履修状況と進路希望とのより良い組み合わせが発見されるかもしれません。また、教員採用試験を受験する予定の県の情報をプログシステムで把握したり、就職を希望する県教委から依頼があった際に、素早く連絡を受けて就職につなげることもできます。
(教師力育成総合支援システム活用マニュアルより)

●学部(大学)行事等 ★web入力(必須) ■教員採用試験関連

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卒業研究	● 題目提出締切り（指導教員に提出）							● 口頭試問 ● 卒業演奏試験（音） ● 卒業論文提出 ● 卒業作品提出（美）				
教員採用試験	● 教師力パワーアップセミナー		■ 願書提出		■ 一次試験		■ 二次試験 ■ 講師登録		■ 各教育委員会による 合格者研修		■ 勤務校決定 ■ 講師採用の 連絡	
					■ 合格発表		■ 合格発表		● 教師力パワーアップセミナー（未来へむけて）			
その他	● 学校教育実習Ⅵ		★ 教職志向・進路・取得予定の免許状調査		● 発展期セミナー ● 在学生ガイダンス（就職・進路調査）		● 教育職員免許状申請手続				● 卒業式 [PS返却] ● 進路状況 調査	
	● 在学生ガイダンス ● 健康診断 ● 進路希望調査				● プロファイルシート（PS）作成説明会 ★ PS入力		● 教職実践演習		★ PSまとめ 入力			
					さらに自分を磨く基礎体験（学校体験を中心に）				● 1000時間体験学習修時間認定締切り		● 大学院出願（Ⅱ期） ● 大学院入試（Ⅱ期）	
					● 大学院出願（Ⅰ期） ● 大学院入試（Ⅰ期）							
	★ 教員採用試験・就職活動で変化がある度に就職支援室に報告する。また教師力育成総合支援システムにも同じ内容を入力する。											

教員採用試験
先輩からのアドバイス

- ◆受験する都道府県を早めに決め、出題傾向を分析
- ◆試験問題にはヤマをはらずに、分析結果をまんべんなく
- ◆二次対策(面接、実技など)も早めに
- ◆提出物は早めに作成、必ずコピー、早めに提出。必ず誰かに読んでもらう
- ◆問題集・参考書はあれこれ手をつけても意味がない。同じものを何回も。
- ◆先輩のアドバイス、体験談は何よりも貴重
- ◆自分の試験勉強のリズムを早く見つける(息抜きの時間も必要)
- ◆友達の良いところはどんどん真似して取り入れる(仲間は大切)

教員採用試験対策

＜教師力パワーアップセミナー＞

- 主に面接(集団・個人)、集団討論の練習
- 教育学部の教員や学外の教育関係に携わっている方が面接官をしてくださいます。
- ここでのアドバイスはとても重要。

＜就職支援室＞

- 証明写真の試し撮り、面接の様子を撮影してくれるサービスを開始
- 各都道府県の教員採用試験動向情報を提供
- その他の就職相談

＜その他＞

- 教員採用試験受験テキストブックをチェックする
- 各種セミナーに積極的に参加する。
- 学部情報ブログをチェックする。
(教員採用試験情報が日々更新)



卒業生の声

“もの”づくりは人づくり

自然環境教育専攻 桐 雅幸



大学の先生から頂いたこの言葉は、私の大学時代を物語っています。

私はこの大学生活でたくさんの“もの”をつくってきました。

主専攻を理科、副専攻を技術として、自分で実験器具を工夫したり、木工でテレビ台を作ったり、理科と技術の相互で、ものづくりの力が自分自身に身についていきました。

このものづくりの力を利用して、教育実習では、子どもたちの興味関心を引き出し、理解を助けるような教材をつくりました。また、授業や子どもたちとの雰囲気をつくることも、教育実習や1000時間体験学修を中心に行うことができました。これらを自分から取り組むことができる環境があったおかげで、自分が求めている教員としての力を育むことができました。「自分で生み出したものが、子どもたちを育てている。」この感覚は私の中で、1つの教員の魅力となっていました。

これらの他に、目に見えない“もの”もたくさん作ってきました。特にこの大学生活でつくったのは人とのつながりです。サークルや授業、1000時間体験学修等で、様々な個性や考えをもった人たちに会えることができました。特に1000時間体験学修では、いろいろな学校に訪問させていただいたことで、生徒はもちろん、教員の方々とのつながりをもつことが出来ました。このような人とのつながりをつくれたことは私の大きな財産です。また、教育学部は教員を志す仲間が多く集まるので、4年間ずっと刺激を受け、教員になるというモチベーションを保つことができました。ここでつくった友達は一生付き合っていける、そんな存在です。

紹介したように、私は様々な“もの”づくりから人を、特に自分自身をつくり、磨いてきました。来年度から、島根県の中学校理科教員として教壇に立ちますが、様々な“もの”づくりを通して、自分自身を磨いてつくり上げるとともに、子どもたちの未来をつくっていきます。(島根県出身)

「自由」をどうとらえるか

初等教育開発専攻 平岡真由美



小学生の頃から持ち続けた「小学校の先生になる」という夢を叶えるため、私は島根大学教育学部に入学しました。入学した当時は、授業の仕方や各教科の知識を身に付けることが教師になる上で一番重要なことであると考えていました。しかし、大学4年間で経験した多くのこと、そして多くの方々との出会い関わっていく中で、教師として本当に大事なことに気付くことが出来ました。

私にとって、自分の考えを変えるきっかけになったものは、大学での講義と1000時間体験活動です。大学の講義では、様々な課題について大学の先生と学生のみinnなどで討論し合うものがあります。様々な価値観、そして普段気付かないような目の前にある多くの課題に触れることで、日々の生活で出会う様々なものに対する「物を見る目」が変わっていくことを実感しました。1000時間体験活動では、学生を中心に小学生対象のキャンプの企画・運営を行ったり、小学校の宿泊活動の補助をしたりと、様々なことに参加してきました。1000時間体験活動の良さは、学校教育に関わる活動だけでなく、広い分野で活動が用意されているということです。私は大学を卒業する直前まで活動に参加してきましたが、どんなに経験を積んでも、たとえ上回生になっても、参加する度必ず学びがあり、本当に意義のある経験をさせていただきました。

島根大学教育学部に入ると、受けた講義を自分で選択するだけでなく、1000時間体験活動の選択など、自由な時間・自由な選択が多く生まれます。この時間、そして自由に選択できるという状況をどうとらえるか。是非島根大学教育学部に来てこのチャンスを活かしてほしいと思います。

私は春から広島市で、小学校教諭として勤めることが決まりました。不安な面も多くありますが、夢であった教師として働けるということ、それを支え応援してくださった多くの方々との出会いに感謝し、4月から頑張っていきます。(広島県出身)

自分で作る大学生活

初等教育開発専攻 村上 祐太



私にとって、この大学生活の4年間はかけがえのないものとなりました。大学生活では、部活・サークル活動、講義、アルバイトなど様々な経験を積むことができます。

その中でも、私は、1000時間体験学修に力を入れてきました。1000時間体験学修では、児童の学習支援や、企画・運営、実習セメスター（母校での体験学修）を中心に活動してきました。活動はどれも学びになるものでした。活動中、成功もあれば失敗もしてきました。例えば、体験学修中に時間が経てば経つほど、児童と大学生との距離感は近くなります。つまり、仲良くなるのです。友達のような存在になることもあります。そこで、いざ児童に対して指導するとなった時、友達のような存在の大学生の指導が通るのかというと、なかなか指導は通りません。これは、私自身が、体験学修で経験したことの中で、特に学びになったことを例として挙げました。この後、私は1000時間体験学修の中で試行錯誤しながら取り組み、児童との距離感の重要性を学びました。これらの経験は、私の中で、他の1000時間体験学修や教育実習の中で生きてきました。恐らく、学校現場に出ても生きてくことだと思っています。

以上のように、私は学びの一手段として1000時間体験学修を選択しました。無論、島根大学には、1000時間体験学修以外にも学びの場はたくさんあります。その手段を選択する中で、自分が何を学びたいのか、何をしていきたいのかを明確にしていくことが大切なことです。大学生活という限られた時間を「有効」に活用する、その「有効な活用の仕方」とは、人それぞれなのです。

私は来年度から、岡山県の小学校で教員として教壇に立ちます。不安な気持ちもありますが、大学生活で学んだことを忘れず、これからも1000時間体験学修の時の向上心を大切に頑張ります。（鳥取県出身）

大学4年間での私の学び

人間生活環境教育専攻 林 知子



『感謝』の反対語は『当たり前』—これは、高校の卒業式の時に、お世話になった先生から教えて頂いた言葉です。当時の私は、なるほどなぁとは思いましたが、あまりよく分かりませんでした。しかし、大学4年間を終えて今なら分かる気がします。

島根大学の教育学部は、教員を目指す者にとって本当に恵まれた環境の中にありました。1000時間体験をはじめ、多様な経験の場を与えてくれました。1・2回生の時は、与えられるものを特に何も考えず、ただこなしていました。与えられているこの環境が当たり前だとさえ思っていました。しかし、学年が上がるにつれ、考えは変わったように思います。教育実習での授業準備や1000時間体験での企画運営、また友達や先輩とのかかわりを通して物事の見方が変わり、視野が広がりました。今まで当然にあるものだと思っていたこの環境は、本当はたくさんの人の協力と支えがあったものだと気付くことができたのです。また、このことは大学での出来事だけでなく、今まで私が育ってきた中でも同じようにいえるのではないかと気付きました。今日まで私が成長することができたのは、たくさんの人が私を暖かく見守り、支え、愛情を注いでくれていたからだと思うようになりました。周りの方への感謝に気付く事ができました。

このようにとても大切な気付きを与えてくれた大学生活は私にとって、本当にかけがえのないものです。島根大学で4年間過ごすことができ、本当に良かったと思います。

私は4月から兵庫県の中学校で家庭科教員として教壇に立ちます。新たな地での挑戦になりますが、どんな時でも前向きに、周りの方への感謝の気持ちを忘れずに頑張りたいと思います。そして、今まで私がたくさんの人に支えられ、見守られてきたように、今度は私が、当たり前だと錯覚してしまうくらいたくさんさんの愛を、子ども達に伝えていきたいと思います。（島根県出身）

感謝を忘れずに

言語教育専攻 英語教育コース 細木 陽平



「将来の夢は」といった質問にただ何となく「教師」と答えてきたのが、入学当初の私でした。「教師」になることは私にとって小学校からの夢でしたが、具体的にどのような仕事をしているのか、教師になるためには何が必要なのかといったことは、ほとんど知りませんでした。しかし、島根大学ではその答えを自分で見つけていくことができます。

教育学部の魅力は、「教員養成のための充実したカリキュラム」と「1000時間体験学修」、そして同じ夢をもつたくさんの仲間がいることだと思っています。大学での講義では教職の知識や専門知識など幅広い知識を得ることができ、教育実習や1000時間体験などでそれらを生かし、自分の成長へとつなげていくことができます。ただし、自分から学ぶ姿勢を忘れないでほしいと思います。大学にはたくさんの学びの場がありますが、何事にも挑戦して向かわなければそこから得るものも少ないです。今ここで、大学生生活の終わりを迎え、充実している自分がいるのも、たくさんの失敗を経験して、それらを糧に日々成長してきたからだと思っています。もちろん、全てが上手くいったわけではなく、不安や悩みも多くありましたが、そのような時は、共に励まし合いながら頑張れる仲間や本当にくだらないことで笑い合える仲間など自分の支えになってくれた人がたくさんいました。

私は、4月から島根県の小学校の教員として教壇に立ちます。いろいろな不安はありますが、子ども一人ひとりの出会いを大切に、笑顔あふれる学級を作っていきたいと思っています。最後に、タイトルにある「感謝を忘れずに」という言葉は、私がこれまで大切にしてきたことであるとともに、子どもたちにも大切にしてほしいことです。皆さんも、家族、先生方、友達、そして子どもに、感謝の気持ち、感謝の言葉を忘れずに、日々自分の成長と向き合って充実した大学生活を送ってください。(島根県出身)

島根大学で学んだ「教師」という仕事

自然環境教育専攻 庄本 絵美



「教えられる」側と「教える」側から見た学校の違いとは何か、教育学部に入学するまでこの問いに私は気づきませんでした。そして今まで「教わる」側から抱いていたイメージよりも、むしろ見えていなかった部分に大切なことがあるということに気づきました。私にとって4年間の一番大きな学びは、教師の仕事は「教えること」ではないということでした。教師は教えるのではなく、教えたり教わったり、伝えたり、伝え合うといった学びの輪を学校という場を作ることであり私は思います。そして、授業や生徒指導等さまざまな場面で子どもと接する際に大切なことは、何をするかではなく目の前の子どもにとって何ができるか考えることだと思います。

ある実験の講義の際、専攻の先生から「100のことを知って1を語りましょう。」という印象的な言葉を頂きました。初めてこの言葉を聞いたときは、何かを教えようと思ったらその知識の背景にあるものからきちんと理解している必要があるのだと思いました。しかしこの言葉は知識のことだけではないのだと後になって気づきました。ひとつの物事を見ても感じ方がそれぞれであるように、ひとつの答えを出すにしても、答えが同じ言葉で表されても導き出した課程は一人ひとり違います。子どもにとって楽しい授業、わかりやすい授業は、教師がしっかりと知識を身につけていることに加え、たくさんの経験を積み、教師自身が学ぶことを楽しみ、教科を愛することが大切なのだと思います。これらの全てのことに気付くことができたのは、教育実習に加え、1000時間体験等の学外の活動、講義、セメスター体験等のたくさんの経験があったからでした。理論と実践を繰り返し、その度考えることで大きな学びを得ることができました。4年間で学んだこと全ては今の私を支えてくれています。そしていつも教師になりたいという気持ちを支え、強くしてくれました。私は今年の春から山口県公立中学校理科の教員になります。今は不安なことばかりですが、何事にも正面から向き合い今の自分にできる精一杯の事をして頑張っていきたいと思っています。そしてこれから出会う生徒、保護者の方、学校の地域の方にとって、出会えて良かったと思ってもらえるような教師になりたいと思っています。(山口県出身)

後援会活動の概要

平成 25 年度

1. 学生教育活動の支援

- ①1000時間体験学修、面接道場、教師力パワーアップセミナー、ビビット広場など学生教育活動事業経費への助成
- ②3年生の実習セメスター又は基礎体験活動の交通費補助
- ③大学院生の学会発表等の交通費補助
- ④ICTルームの書籍整備への助成



ビビット広場



明るくて快適な
ICTルーム 金魚鉢

2. 教育実習の支援

- ①教育実習を充実させるため、各実習受入校の実習経費への助成（学生が実習で使用する文房具や教材等への助成）
- ②教育実習ワークシート作成への助成



教育実習

3. 就職活動の支援

- ①教員志望学生の援助
教員採用試験に向けての対策と指導に関する経費及び各都道府県教育委員会への就職依頼に関する経費への助成

- ②教員採用試験受験テキストブック作成に関する経費への助成
- ③就職支援室の書籍整備等への助成
- ④企業志望学生の支援
就職ガイダンスを開催し、企業就職関連の各種セミナー等を行なう経費の助成
- ⑤4年生の就職活動の交通費補助

4. 国際交流活動の支援

釜山教育大学校（韓国）との交流事業等への助成、テキサス大学、ミシガン大学学生との交流活動への助成

5. 教育環境整備の支援

構内の教育環境の改善を図り、学生の生活環境の向上及び充実のための施設整備経費への助成（トイレ内整備、玄関の花壇整備など）



正面入口前広場の花や観葉樹

6. 広報事業の実施

後援会事業活動報告及び学部教育・研究活動並びに学生生活の様子等をお知らせするための後援会「機関誌」を発行

7. 課外活動の支援

在学中における各種部活動、大学祭、寮祭、中四国大学学生競技大会参加等の活動費への助成



就職支援室

平成26年度

教育学部後援会幹事名簿

地 区	氏 名	在学年	学生氏名	備 考
松江市	奥 村 忠 孝	院2年	奥 村 裕 孝	
松江市	安 食 剛	4年	安 食 みのり	
松江市	板 倉 誠	4年	板 倉 直 哉	副会長
松江市	角 田 智賀子	4年	角 田 仁 志	
松江市	曾 田 稔	4年	曾 田 文 夏	
出雲市	原 浩 幸	4年	原 久 恵	会 長
境港市	安 達 義 昭	3年	安 達 和 哉	副会長
出雲市	安 達 清 志	3年	安 達 悠 太	
米子市	景 井 芳 則	3年	景 井 啓 祐	監 事
出雲市	吉 野 功	3年	吉 野 ゆうか	
松江市	原 田 和 雄	3年	原 田 扶未子	
出雲市	石 橋 利 正	2年	石 橋 奎 吾	監 事
雲南市	狩 野 明 芳	2年	狩 野 雅 文	
松江市	山 本 大 介	2年	山 本 友 香	
雲南市	渡 部 祐 治	2年	渡 部 恭 輔	会計幹事

(順不同、1年生からの幹事は未定)

- 発 行 島根大学教育学部後援会
E-mail kyo-soumu@jn.shimane-u.ac.jp
ホームページURL <http://www.edu.shimane-u.ac.jp/edu/koenkai.html>
- 発行日 平成26年4月1日
- 発行所 島根大学教育学部内 教育学部後援会事務局
- 所在地 〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL (0852-32-6251)
FAX (0852-32-6259)
- 印 刷 株式会社谷口印刷